

～レオナルド・ダ・ヴィンチ没後500年記念～

「ムセイオン静岡」特別講座

古典ギリシヤからルネサンスへ

会場

10/5(土)、12/8(日) 静岡県立大学小講堂 (静岡市駿河区谷田)
11/30(土) 静岡県立大学短期大学部講堂 (静岡市駿河区小鷹)

時間

各回 13:30～15:30

キリストの哀悼／ロヒール・ファン・デル・ウエイデン【ワフツイイ美術館ライレンツヒ】



10/5(土) 講師：小針由紀隆 (静岡文化芸術大学教授)

～越境する絵画～ イタリアとフランドルの美術交流

いくつもの都市国家が並存したイタリア。ルネサンス文化が開花した15世紀でも、各都市が自治権を持ちつつ競い合うように芸術を発展させました。美術でいえば油彩画が新しい絵画技法として脚光を浴び、貴重な美術品としてフィレンツェやナポリなどの宮廷に秘かに持ち込まれました。イタリアの宮廷に所蔵されていたフランドル絵画と画家の活動を探り、ルネサンスにおける南欧と北欧の美術交流の実情を考えます。

11/30(土)

講師：木下 直之
(静岡県立美術館 館長)

12/8(日) ※日曜開講

～明治日本のイタリア式美術教育～ 工部美術学校に学んだ若者たち

明治9年(1876年)、東京赤坂に開校した日本初の国立美術学校の教師は、フォンタネージ、ラゲーザ、カッペレッティと、すべてイタリア人でした。画期的なことに女子も入学でき、10代後半から20代前半の若者たちが本格的なイタリア式美術教育を受けました。教え子たちは画家や彫刻家となり、明治の美術の最初の歴史を築くことになります。当時のこの学校にご案内します。

～有翼の天女をめぐる～ 明治の画家と西洋美術体験

三保の松原の上空に浮かんだ天女に、まるでイタリア絵画に登場する天使のような翼が生えています。天衣で空を飛べる天女がなぜこんな姿になってしまったのか。本多錦吉郎が描いた「羽衣天女」は明治23年(1890)に開かれた第3回内国勸業博覧会で話題となりました。イタリアもヨーロッパもまだ遥か遠い世界でしたが、ほかにも西洋絵画を強く意識した数々の意欲作が出品されました。この絵を手掛かりに、明治の画家たちの西洋美術体験を考えます。



松岡壽とその時代／【松戸市教育委員会、2002年】



羽衣天女／本多錦吉郎
【兵庫県立美術館】

■受講料／3回セット 3,960円、木下館長2回シリーズ 2,860円、1回 1,650円

※3回セットお申し込み先着30名様にはプレゼント付き

■お問合せ・申し込み / リビングカルチャーセンター

☎ 054(205)4111 <http://www.s-liv.com>

リビング静岡

検索

<振り込み先>

【銀行】 静岡銀行呉服町支店 普通口座／0321579「株静岡リビング新聞社教室係」

静岡銀行伝馬町支店 普通口座／0513989「株静岡リビング新聞社」

【郵便局】 振替番号／00830=7=159167「株静岡リビング新聞社」(郵便局備え付けの用紙を使用)

※電話でお申し込み後、受講料をお振り込みください。(振込手数料は各自ご負担をお願いいたします)

